

第 76 回岡山県文化賞（芸術：木工芸）

おぐら よしゆき
小椋 芳之

昭和 22 年生（76 歳）※年齢は令和 6 年 8 月 9 日現在
津山市在住



略 歴

- 昭和 32 年 木地師の父六助に師事
- 平成 4 年 日本木地師学会理事
- 〃 10 年 日本工芸会正会員
- 〃 19 年 津山市指定重要無形文化財（木地師及び塗師技術）保持者認定
- 〃 23 年 岡山県指定重要無形文化財（木工芸）保持者認定
- 〃 28 年 公益社団法人日本工芸会中国支部常任幹事、同支部木竹工部会長（～令和 3 年）

受賞歴

- 平成 6 年 岡山県美術展覧会 入選
（以後、平成 7, 11, 12, 14, 18～20 年に同賞受賞）
- 〃 7 年 日本伝統工芸展 入選
（以後、平成 8～13, 16, 17, 19～21, 23, 25～28, 30, 令和元～5 年に同賞受賞）
- 〃 8 年 岡山県美術展覧会 地域奨励賞
（以後、平成 23 年に同賞受賞）
- 〃 9 年 日本伝統工芸中国支部展 入選
（以後、平成 10, 15, 16, 19, 21, 23 年に同賞受賞）
- 〃 10 年 津山市文化協会 くすのき賞
- 〃 13 年 岡山県美術展覧会 奨励賞
（以後、平成 15, 16, 17 年に同賞受賞）
- 〃 17 年 日本伝統工芸木竹展 入選
（以後、平成 19, 21, 23, 25, 令和元, 3 年に同賞受賞）
- 〃 21 年 備中漆作品展 岡山ロータリークラブ会長賞
- 〃 22 年 日本伝統工芸中国支部展 山陽新聞社賞
- 〃 27 年 日本伝統工芸木竹展 木竹参与賞
日本伝統工芸中国支部展 金重陶陽賞

業 績

現在の鏡野町羽出に代々居住した木地師の末裔で、小学生の頃より父に師事し、挽物技法を習得した。轆轤（ろくろ）で挽いた木地に、研ぎ出し拭漆（ふきうるし）の技法で仕上げる、代々受け継がれた木地師の技術を伝える数少ない存在となっている。平成 23 年には、卓越した木工芸技術が評価され、岡山県指定重要無形文化財保持者に認定された。

平成 27 年の第 58 回日本伝統工芸中国支部展で、最高賞の金重陶陽賞を受賞し、その後、同展の審査員としても活躍している。

平成 28 年以降、日本工芸会中国支部常任幹事・同木竹工部会長に就任し、同支部木竹部会を 7 年ぶりに復活させるなど、支部の運営に尽力するとともに、轆轤挽きの小学校出張講座を行うなど、県内のみならず中国地方の伝統工芸の普及・振興に多大な貢献をしている。

現在も、日本伝統工芸展で平成 30 年から令和 5 年まで連続して入選を果たすなど各種公募展に出品するとともに、毎年個展を開催するなど意欲的に創作活動を続けている。

こうした長年の功績とその成果は、本県文化の振興に大きく貢献しており、その功績は誠に顕著である。

第76回岡山県文化賞（芸術：陶芸）

しまむら ひかる
島村 光

昭和17年生（81歳）※年齢は令和6年8月9日現在
備前市在住



略歴

- 昭和37年 浪速短期大学（現大阪芸術大学）絵画科卒業
〃 50年 近世の備前焼の細工物に惹かれ帰郷、陶芸の道へ入る
〃 53年 現瀬戸内市内に窯を築いて独立
〃 62年 瀬戸内市の寒風陶芸会館立像「時実黙水像」制作
平成4年 備前市久々井に築窯
〃 9年 しぶや黒田陶苑（東京）で初個展「十三支・おくれてきたねこ」展
以後、同苑での個展
平成12年「ちいさなたからもの一秋から冬へ」、平成15年「窯辺の風景～作品～」
平成16年「はつがま泡瓶」、平成18年「六十三の心音」、平成22年「壺」 など
平成10年 DAI ICHI ARTS（米国ニューヨーク）で個展
〃 11年 明日香画廊（岡山市）で岡山県内初の個展
〃 13年 工房IKUKO（倉敷市）で備前焼作家伊勢崎紳氏と二人展
〃 14年 天満屋岡山店（岡山市）で個展「窯辺のスケッチ」
以後、同店での個展
平成17年「泡瓶でTea for two」、平成19年「さいくもの」
平成25年「窯辺のスケッチ」 など
平成25年 備前市指定無形文化財（備前焼の製作技術／細工物（現代））保持者認定
〃 27年 黒住教宝物館（岡山市）で「島村光と古陶の共演展」
〃 29年 岡山県立美術館で「島村光・金重有邦・隠崎隆一展」（同美術館主催）
〃 30年 LIXILギャラリー（東京）で個展「十三支・おくれてきたねこIV」
〃 31年 岡山県指定重要無形文化財（備前焼製作技術）保持者認定
令和元年 全国巡回「The 備前一土と炎から生まれる造形美」展（岡山県立美術館）
〃 4年 福屋八丁堀本店（広島市）で個展「土を編む 島村光展」
〃 5年 しぶや黒田陶苑（東京）で、80歳になったことにちなんで泡瓶（ほうひん）のみ80個を並べた個展「八十の心音 島村光展」を開催

受賞歴

- 平成27年 岡山県文化奨励賞
〃 28年 山陽新聞賞
〃 28年 マルセンスポーツ文化賞 マルセン特別賞
令和5年 日本伝統工芸展 入選

収蔵先

黒住教宝物館、岡山県立美術館、茨城県陶芸美術館、国立工芸館

業績

大阪で現代アートの制作活動を展開していたが、昭和50年に帰郷。備前細工物が持つ酒脱さに惹かれ、独学で製法を学んだ。伝統の単なる継承ではなく、陶工の心意気を継承しながら、現代アートで培った現代的感覚を吹き込んだ独自の世界を生み出した。こうした業績が評価され、平成31年には岡山県指定重要無形文化財保持者に認定された。

その後も、若い後継者の育成にも力を入れ、若者の作家展を監修するなど、細工物の再興に尽力している。令和元年、令和4年に岡山県美術展覧会の工芸部門で審査員を務め、令和4年、令和5年には、「おかやまマラソン」フルマラソンの総合男女各1～3位に贈る備前焼メダルを制作した。令和5年には、日本伝統工芸展に初出品初入選を果たし、備前細工物が同展に入選する初のケースとなった。

こうした長年の功績とその成果は、本県文化の振興に大きく貢献しており、その功績は誠に顕著である。